

「里山体験・交流活動」

- ☆ 日 時：平成22年7月24日（土） 9：30～15：00
- ☆ 場 所：いやしの森、黒岩峽（岩国市周東町、周南市小松原）
- ☆ 参加者：37人（こども17人・大人20人）
- ☆ 主 催：周東里山の会

1 スケジュール

9：30～	開会行事
9：40～11：00	森林整備
11：00～12：30	昼食
12：30～13：00	移動
13：00～15：20	沢登り

2 活動内容

いやしの森で、雑木の除去と昆虫探しを実施後、黒岩峽で沢登りを体験しました。

【開会行事】

はじめに、周東里山の会代表の挨拶、事務局から行事日程の説明がありました。続いて、行事の注意事項と方法について、会員の橋本氏から説明を受けました。橋本氏は、山や水辺で出会う可能性がある蜂とへびについての注意する点について、毒へびのまむしに出会ってもその場を離れると噛みついたりしません。もし噛まれても、すぐに病院にいけば間に合います。しかし、蜂はショックで命を落とすこともあります。蜂がやってきたら、①手で振り払わないこと。手で振り払うと、襲ってくる。②もし、蜂が腕などに止まって動いても、じっと我慢をすること。蜂は汗のニオイが好き。食べ物かどうかを物色しているだけ。違うと判断したら飛んでいく。これを追い払おうとすると刺される。③蜂がカチカチと音をたてたら、急いでその場から逃げる。蜂が来るなど威嚇している。以上を特に詳しく説明しました。



周東里山の会代表あいさつ



橋本氏が説明中

【活動内容】

(森の整備)



いやしの森で、きのこを発見しました。橋本氏は、「地面に近い部分がぷくと膨れているのは、毒があるきのこと思って欲しい。またきのこは毒のあるものを見分けが付きにくいので、自分の判断で食べないこと」を伝えました。



これは、毒があるきのこ



森の整備を開始。山に日が差すように雑木を切っていました。子どもたちは、始めは細くひよろひよろの幹を間伐していましたが、鋸になれてくると、より太い木に挑戦を始めました。途中、大人の手を借りることもありました。切り倒すところまでやり遂げました。



倒した木は、まとめて積みました



以前間伐した木は、しいたけの原木として利用されています



いやしの森の側には、畑があります。この畑から枝豆を収穫し、昼食の1品としました。昼食後、こどもたちと次回植付け作物のための肥料を調合しました。(米ぬかを主原料に有機肥料を加えこねたもの)

(沢登り)



黒岩峽に移動して、沢登りを体験しました。沢登りではライフジャケットとヘルメットを着用して安全確保をしました。最高気温35度を記録した日だが、水は冷たくずっと肩まで沈んでいると寒さを感じる程でした。参加者はこどもも大人も水に身体を預けて流れたてたり、流れに逆らい歩いたりしながら、水の力を感じていました。

ここに参加したこどもたちは、間伐作業も沢登りも同じくらい楽しんでいた。沢登りでは、沢の水に押し返されたり、水の深さの差で驚き、注意深く歩くことを体験しながら、川とのつきあい方を会得しているようだった。